



1月12日から20日の間、市立海の博物館で網走から全日本空輸（ANA）の協力により空輸された流氷約600kgが展示されました。流氷には直接触れることもでき、訪れたかたは本物の流氷にタッチして「つめたい」など感想を述べていました。

13日には、網走の特産品が購入できる網走物産展や、鳥羽の焼きガキ販売など網走・鳥羽の名物を味わうことができました。また、同日開催の「流氷&とぼうみトーク」では、流氷や鳥羽の海について学ぶことができ、期間中はたくさんのかたで賑わいました。

網走からのおくりもの・流氷にタッチ



三重大学などで行われる地域イノベーション学会が年一回選定する「地域イノベーション大賞」に鳥羽マルシェが選ばれました。地域イノベーションとは地域の資源を活用し、地域課題の解決に向けた革新的な取り組みのことです。

鳥羽マルシェ有限責任事業組合の藤原隆仁代表は「第一次産業として安全な農水産物を提供する取り組みが認められてうれしい。今以上に適正な価格での提供へ思いを新たにしている」と喜びを中村市長に報告しました。

鳥羽マルシェが大賞に輝く



平成28年に答志島で開催された海辺のまち鳥羽出逢い応援事業でカップルになった答志町の西川幸吉さんと京都府出身の典子さんが、2年の交際を経て平成30年12月に成婚したことを中村市長に報告しました。

典子さんは「移住して間もないですが、島民のかたが気にかけてくださり、戸惑いもなく楽しく生活しています。お互いを思い合っている間でも仲良く暮らしたいです」と笑顔で話してくれました。

西川さん夫妻は鳥羽市新婚さん真珠交付事業により中村市長から真珠PR隊に任命され、記念品として真珠製品が贈呈されました。

出逢い事業での成婚を真珠で祝福



1月3日、かもめ幼稚園でタイムカプセルが掘り起こされました。このタイムカプセルは、



かもめ幼稚園創立20周年の際、当時4歳児・5歳児の親子が未来の絵を描いたものなどを入れた衣装ケースを埋めて、20年後に開封する約束をしていたものです。

卒園生の親子、当時の先生ら約50人が集まって園庭のイチヨウの木の下を掘り起こしましたが、タイムカプセル内は雨水などが浸食しており内容物の確認はできませんでした。しかし、集まったみなさんは久しぶりの再会を喜び、思い出話に花が咲きました。

20年前の約束。タイムカプセル開封